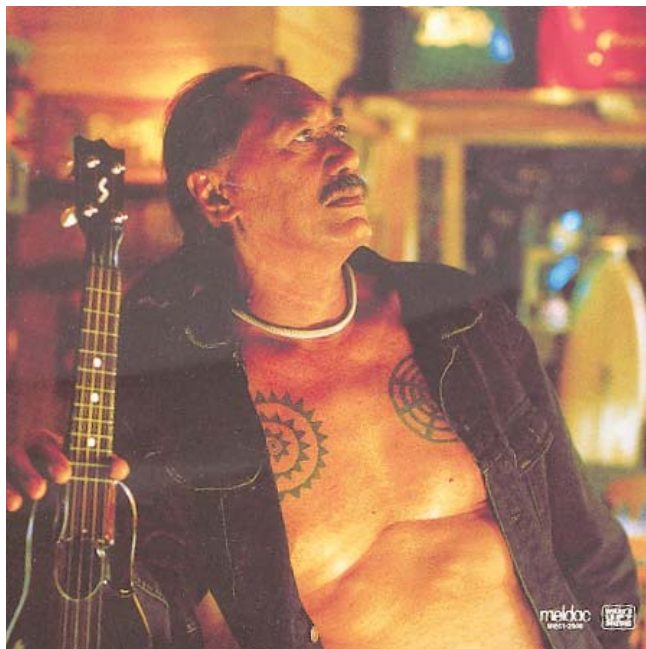
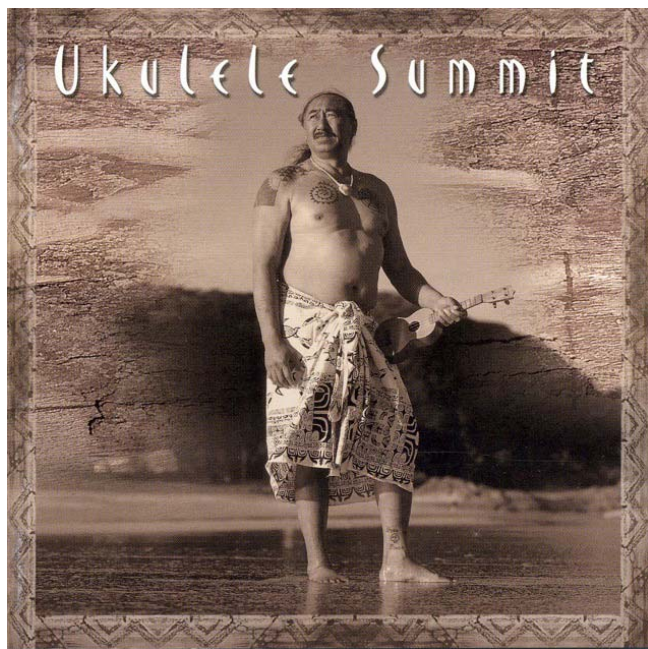


Music

ウクレレ・サミット

Text & Photos: George Cockle
文・写真/ジョージ・カックル



かれこれ10年以上前のこと、1999年6月に「ウクレレ・サミット」というコンピレーションCDが発売された。実はこれ、俺が作ったもので、その後も定期的に6枚ほどリリースした。コンセプトはビッグアーティストによるウクレレのカバーソング。もちろんプレイヤーはみなハワイのウクレレ名人達だ。ダニエル・ホー、カウ・クレター・ボイズ、ハーブ・オオタJr、マーク・キャス、オブライアン・エセル、ケオキ・カフモク、ウィリー・K、シャーン・ナアウといったアーティストだ。1枚目と2枚目はボブ・マーレーのカバー、3枚目はビーチボーイズのカバー、4枚目はイーグルスのカバー、そして5枚目はグレートフル・デッドのカバー。その合間にクリスマスにちなんだ曲を集めた「ウクレレ・サミット・クリスマス」も出した。ジャケットのイメージキャラクターは、当時日本に住んでいたハワイアン・サーフレジェンド、タイガー・エスベリ。そしてカメラマンは横山泰介。CDを聴いたことがなくても、ジャケットの写真は見たことあるんじゃないだろうか。

1枚目のジャケットはどう見てもハワイ！に見えるけど、実は日本。伊豆の大浜で撮影しているんだ。泰介が撮影するタイガーの

写真にはマジックがある。伊豆の大浜もとてもきれいな海岸だけど、これがハワイのどこか美しいシークレットビーチに見えるんだ。こんなエピソードもある。ジャケット撮影をどこにしようかという話になったとき、泰介が伊豆の海岸のとある場所がぴったりというので、2台の車で伊豆に向かったことがあった。メンバーは俺とレコード会社のディレクターとカメラマンの横山泰介、それとアシスタントは当時サーフパンクバンドとして活躍していたノー・エンドワイのアキラ、そしてモデルとしてタイガー・エスベリだ。撮影当日、七里ヶ浜でタイガーをピックアップして出発すると、予想外にも目の前の七里ヶ浜に波がたっていた。時間がないはずなのに、なんと誘われるようにしてみんな海に入ってしまったんだ。入らなかったのはレコード会社の人だけだったと思う。ワンラウンド終わったらもう午後、急いで伊豆に向かった。ハワイのイメージを出すために俺達もハワイアンタイムで過ごそう、なんて言い訳をしながらね。数時間のドライブを経て現地に着く頃は、もう暗くなる直前。カメラマンたちがいうゴールデンタイムになっていた。光のいいゴールデンタイムはほんの一

瞬だ。普通だったら、その時間のためにカメラをセッティングしているはずだね。そこでみんなで帳尻を合わせるように、駐車場から波際まで全員で走って、急いで撮影をした。走り回りながらセッティングして、何枚か撮ったと思ったら、とつぷりと日が暮れてしまった。みんな心配していたが、泰介だけは大丈夫だよ、撮れてるよと言っていた。その言葉を信じるしかなかった。一番不安なのはきっとレコード会社の人だったろうな。片付け終わって、泰介からハイッと受け渡されたのは、たったワンロールのフィルムだ。結果はこれ。まるでハワイだ。

それから、俺は毎回このチームとシリーズ作品を6枚まで作ったんだ。その後、ウクレレでポップソングをカバーするCDが世の中にたくさん出回ったけど、このシリーズの完成度が一番高いんじゃない？ なんて手前味噌かな(笑)。



ジョージ・カックル ●60~70年代のロックに精通し、ラジオ・パーソナリティとしてインターFMや東京FMで活躍中。鎌倉出身・在住。波乗り歴38年の親父サーファー。
www.whatsupmusicinc.com